

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word)

【氏名】

長野壮一

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院 人文社会系研究科

【研究題目】

近代フランス社会政策思想における中間団体概念の変容：1864-1884

【研究の目的】(400字程度)

フランス革命は旧体制期の封建的な特権団体を廃止し、自由かつ平等な個人から構成される近代社会の理念を提示した。しかしながら革命後の諸政体は、国家と個人を媒介する中間団体の管理統制に引き続き従事することを余儀なくされた。19世紀の工業化に伴う社会構造の多様化・分極化と相まって、諸社会集団の利害を適切に代表する手段が新たに必要とされたのである。そうした要請から実施されたフランス社会政策において、中間団体はいかに把握・解釈されたのだろうか。この問題に取り組む際、本研究が特に着目するのは、第二帝政期後半から第三共和政期前半にかけて実施された諸政策である。今日に連なるフランス共和政体の基礎が敷かれたこの時期、中間団体を承認する社会法制が連続して議会を通過する。中でも、団結権の承認(1864年)および職業組合結成の合法化(1884年)は、革命期の中間団体否認理念を修正する政策として、従来の研究において重要な位置付けを与えられてきた。本研究はそうした先行研究の問題意識を継受し、これらの諸法制において立法関係者が中間団体をいかなる概念として認識したのかを解明することを目的とする。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究の分析対象は、革命期の統治原理が修正される契機になったとされる第二帝政末期から第三共和政初期にかけて実施された諸社会立法における中間団体関連概念の認識である。具体的な事例としては、当該時期における代表的な中間団体関連法制として、下記三点の立法過程を検討する。

一点目の検討事例は、1864年5月25日の団結法である。フランスで団結権が承認されたのは1864年5月25日の法律によるが、本立法の制定過程において、「団結」とは特殊な法理として、「結社」との連関において理解された。報告者はこれまでの研究において法案審議過程の分析を既に済ませているが、本研究では本立法における中間団体概念の理解をさらに深めるため、同時代の論壇誌に掲載された法学者や経済思想家による論説において「団結」がいかなる意味内容をもつ語として使用されているかを分析する。

二点目の検討事例は、1884年3月21日の職業組合法である。この法令は、「結社」一般の法的承認に先立って、その特殊形態である「組合」を承認したという点で、当時の中間団体に関する線引きを端的に表明したものと注目される。職業組合法の制定が最初に発議されたのは1876年であるが、最終的な成立にはそれから8年間を要した。この間、組合と結社をめぐってさまざまな見解が提示され、国民議会における争点となった。本研究ではそれらを分析することで、当該時期における中間団体概念の変容を跡付けることを目指す。

この職業組合法の成立過程を理解するためには、同時並行的に進んでいた結社法の展開を理解する必要がある。そこで三点目に検討される事例は、1869年から1884年にかけて複数度提出された結社権承認法案である。結社法が最終的に成立を見るのは1901年であるが、法案自体は1871年を皮切りとして断続的に提出されていた。職業組合法は結社権の成立が遅れたために提出されたのである。ゆえに本研究では、結社権の要求が最初に明確な形で提示された急進共和派のマニフェストである「ベルヴィル綱領」が発表された1869

年から、職業組合法が成立した 1884 年にかけての結社法審議過程を分析する。

【結論・考察】（400字程度）

1870～1880 年代の立法過程において、結社は主に政治的ないし宗教的文脈の中で理解され、集会権や修道会の法的能力の問題と関連付けて議論された。これに対し、組合は専ら社会的ないし経済的文脈の中で理解され、罷業権や団結権と関連付けて議論された。本研究の暫定的な解明点は、そのような中間団体概念の生成において、ジュール・フェリーやピエール・ヴァルデク＝ルソーら穏健共和派の役割は限定的であり、むしろ主要な役割を担ったのは、1870 年代の立法を主導した急進共和派であったという事実である。ただし、フランス革命の原理の完遂を志向する急進共和派の政治綱領は 1860 年代から既に存在したものの、例えばジュール・シモンの著書『労働』（1866）では団結が「自発的な結社」と定義されるなど、上の区分は明確ではない。また当時は職業組合法案に顕著な革命批判の論調も未だ前面には表れていない。したがって、急進共和派の政治路線においてベルヴィル綱領（1869）からエドゥアール・ロクロワによる職業組合法案提出（1876）に至るまでの間にいかなる方針転換がなされたのかを解明することが次なる課題である。